

# ちょっと 拝見 となりの DAMカート

## 色ベタ + スミ40% 50a新ゴB 山形大学医学部附属病院の巻 色20%+スミ20% (以下同) 30a新ゴM 38a新ゴM



×26s11  
Y205s11

0.3s11ケイ・色ベタ+スミ40%  
46s11  
160s11

0.5s11ケイ・スミ20%  
133s11  
99s11

×56.5s11  
Y68s11

色ベタ+スミ40% 基本情報 15a ロダンB 20H  
手術室 12 室に対して DAM カート 1 台 14a ロダンDB 20H  
W 42 cm × D 52 cm × H 82 cm 30H

手術部中央廊下の真ん中に配置。一番遠い手術室まで約 20 秒。  
McGRATHM MAC, 成人用バグバルブマスクは全手術室に配備している。  
経鼻・経口エアウェイは麻酔カートに常備,  
気管支ファイバースコープ (ディスプレイザブル) はD AM カートの隣に配置している。  
DAM カートは、救急カートも兼ねる。

13a  
ロダンDB  
20H

情報提供 山形大学医学部附属病院 角田 凛太郎 先生

指定外は、11a新ゴ

1234 ● LISA VOL.11 NO.1 2004-1

14a新ゴB  
Y255s11 色ベタ+スミ40% 文字・白キ  
6s11  
142s11



ちょっと拝見 ◆ となりの DAM カート

上  
● バッグバルブマスク (小児用 / 成人用)  
● 経口エアウェイ (3 サイズ)  
● ハサミ、テープ、タイマー、ペンライト

側面  
● チューブエクステンジャー (3 サイズ)  
● 胸骨圧迫用背板  
● 記録メモ用紙

引き出し 1 段目 (院内共通) その①  
(生理食塩液 20 mL, ブドウ糖注射液 5%, ソル・コーテフ, 注射用水, リドカイン静注用 2%, 硫酸マグネシウム補正液, カルチコール注 8.5%, ポラミン注 5 mg, アトロピン注 0.05%, ●●, ●●, ●●, アミオダロン塩酸塩静注, ネオフィリン注 250 mg, 注射用カルシウム拮抗薬ニカルジピン 2 mg, ノルアドレナリン注 1 mg, アドレナリン注 0.1%)

引き出し 2 段目 (院内共通) その②  
(ソリューゲン F 注, ドブタミン持続静注 150 mg, イノバン注 0.3%, メイロン静注 7%, 生理食塩液)

引き出し 3 段目 (レッドゾーン)  
● クイックトラック  
● トラファイン  
● メス (11 番)  
● ヤンカーサクシオンチューブ  
● 滅菌ガーゼ  
● シリンジ (10 mL)

引き出し 4 段目 (グリーンゾーン 成人)  
● 気管チューブ (5.0/6.0/6.5/7.0/7.5/8.0 mm)  
● スタイレット (成人用)  
● 潤滑ゼリー  
● 経口エアウェイ (2 サイズ)  
● 経鼻エアウェイ (7.0/8.0 mm)  
● バイトブロック (2 サイズ)  
● サクシオンセーフ シーベル Y (ファイバー用コネクタ)  
● サヌキエアウェイ  
● 吸引チューブ (10/12/14 Fr)

引き出し 5 段目 (グリーンゾーン 成人)  
● エアウェイスコブ (AWS) 本体, イントロック NK (SL/TL/LL)  
● McGRATH MAC X ブレード  
● ライトワンド  
● Macintosh 型喉頭鏡 ハンドル, ブレード (#3/#4)  
● 乾電池

引き出し 6 段目 (グリーンゾーン 小児)  
● 経口エアウェイ (小児用)  
● スタイレット (小児用 / 乳児用 / 未熟児用)  
● マイクロカフ気管チューブ (3.0/3.5/4.0/4.5 mm)  
● AWS イントロック (NL/PL)

引き出し 7 段目 (イエローゾーン)  
● i-gel (#1/#2/#2.5/#3/#4/#5)

引き出し 8 段目 (イエローゾーン)  
● air-Q (#1/#1.5/#2/#3/#3.5/#4/#5)  
● プッシャー (小 / 大)

1234 ● LISA VOL.11 NO.1 2004-1

コメント

もともと手術部では気道に特化したカートを配備しておらず、院内共通管理の救急カートが配置されていた。各病棟の救急カートとの一括管理のため、救急薬物も配備されている。困難気道が予想される症例では個別に物品をそろえて対策し、緊急時にもスタッフが機材準備室まで個別に取りに行くという状況であった。そのため最近、救急カートが気道目的で使用されたことはなかった。

今回の執筆にあたり、筆者は日本医学シミュレーション学会のDAMセミナーに参加して、困難気道管理が可能となるようにカートの内容を見直し、物品を追加、整理した。日本麻酔科学会の気道管理アルゴリズムに準じて、引き出しにレッド、グリーン、イエローのラベルを貼り、それぞれのゾーンに対応した物品を配置することで緊急時に必要な物品がどの段に入っているかわかりやすいようにした。レッドゾーンは超緊急事態のため、あえて最上段にした。またグリーンゾーンについては、成人用の物品と小児用の物品を別の段に分けて収納した。

物品の補充は、チェックリストをもとに手術看護師が毎日行っている。物品補充完了後は、引き出しにテープで封をしており(全体写真)、物品使用時にテープをはがすことで、補充が必要であることが一目でわかるようにしている。

今後も実際の使用感を参考に適宜アップデートを行う予定である。気道確保薬物(筋弛緩薬と拮抗薬、鎮静薬)の配備が必要か、などについても検討が必要かもしれない。さらに、台数を増やす、困難気道が予想される症例の部屋へあらかじめ持ち込む、手術部外での全身麻酔時に帯同する、といった運用方法についても検討中である。

1234 ● LISA VOL.11 NO.1 2004-1